

筑波おるし

「友達の夢が添削された」
——。昨年12月、高校受験を控えた弟から怒りの電話がかかってきた。スポーツインストラクターになりたいという友人の志望理由書を、聞こえをよくするため「将来は教師になりたい」と進路指導の教師が書き換えた。しかも友人はそれをすぐに受け入れたという▼「人の夢がぞんざいに扱われていいはずがない」という弟の意見はもっともだ。同時に、なぜ友人は教師による添削をあさりと受け入れたのだろうかと、当時の私は疑問に感じた▼大学3年になり、夏インターンシップの募集が始まった。周りが就活ムードになりつつある今なら、友人の気持ちが少し

分かる。先日登録した就活サイトには「上手に自己アピールする方法」であふれ、それに促されるままに書いたエントリーシート上での私は必死に「御社が求める人材」のふりをしていた▼2016年、大手就活サイト「キャリアタス就活」の調査によると、7割以上の学生は就活で「嘘をついたことがある」と回答した。どうやら「ふりをする」のは私だけじゃないようだ▼ありのままの自分で勝負できるだけの自信はない。だが、多くの学生がしていることはいえ、本音を隠して脚色した自分を語ることで得た内定や合格に、果たして価値はあるのか。自分の将来を見てしまうような気がして、いまだに友人のその後を聞けていない。